

平成26年における船舶事故・人身事故発生状況（速報）

- 1 船舶事故は244隻（前年284隻）で40隻減少
小型船舶（プレジャーボート、漁船、遊漁船）の事故が大幅に減少
- 2 マリンレジャー（釣り、ボードセーリング、遊泳など）に伴う事故者数は130人（前年161人）で31人減少
マリンレジャーに伴う人身事故（釣り中の事故者）が大幅に減少
- 3 水上オートバイの事故隻数及び水上オートバイが関係した事故者が大幅に増加

（参考）第五管区海上保安本部管轄区域内（兵庫県（瀬戸内海沿岸）、大阪府、和歌山県、徳島県、高知県の沿岸）における船舶・人身事故の発生件数（速報値）

1 船舶事故

（1）船舶事故の隻数

平成26年に発生した船舶事故の隻数は244隻、前年と比べ40隻減少しました。過去5年間では、東日本大震災の影響で船舶事故数が大幅に減少した平成23年（226隻）の次に、少ない隻数となりました。（図1・2参照）

船舶事故の総数244隻のうち、死者・行方不明者を伴う事故が8隻、死者・行方不明者13人（前年6隻、7人）となっており、8隻のうち7隻が小型船舶の事故によるものとなっています。（図3参照）

（2）事故船舶の種類別

事故船舶の種類別では、プレジャーボートが131隻（前年142隻）と最も多く、次いで漁船が42隻（前年59隻）、貨物船36隻（前年38隻）、タンカー6隻（前年11隻）の順となっています。プレジャーボート、漁船といった小型船舶の事故が前年に比べ大きく（28隻）減少しています。（図4参照）

プレジャーボートの事故は、昨年に比べ11隻減少しているものの、船舶事故全体では、約54%（前年約50%）と半数以上を占めています。その7割が軽率海難※となっています。

※発航前点検等の基本的事項を守ることで未然に防止することができた船舶事故

（3）事故種類の別（図5参照）

事故の種類別では、衝突が93隻（前年102隻）と最も多く、次いで機関故障が38隻（前年39隻）、乗揚が37隻（前年30隻）の順となっています。

船舶事故は全体として減少する中、乗揚事故は水路調査不十分などの軽率海難により増加しています。

（4）船舶事故の要因（図6参照）

船舶事故の要因別での発生状況は、見張り不十分、気象海象不注意などの人為的要因が188隻（前年228隻）で、残り56隻（前年56隻）は不可抗力等による事故となっています。

2 マリンレジャーに伴う人身事故

(1) 人身事故の事故者数 (図7参照)

平成26年に発生したマリンレジャーに伴う人身事故の事故者数は130人で、前年(161人)と比べ31人減少しました。

前年からの事故者数の減少は、主にマリンレジャーに伴う海浜事故の減少(22人減)によるもので、釣り中の事故者が20人減少しています。

死者・行方不明者は22人(前年25人)で、主な内訳は、釣り中12人のほか、遊泳中6人、スキューバダイビング中1人、海中転落3人となっています。

(2) 事故の種類別 (図8、9参照)

① マリンレジャーに伴う海浜事故※1

※1 遊泳中、磯遊び、釣り、サーフィン、ウェイクボードなどのマリンレジャー中の海浜事故

事故者数は110人(前年132人)で、釣り中の事故者が43人(前年63人)と最も多くなっています。

事故者数は全体として減少し、釣り中の事故者数の割合も低下しましたが、依然としてマリンレジャーに伴う海浜事故の約4割(前年約5割)を占めています。

② マリンレジャーに伴う人身事故(乗船中の人身事故)※2

※2 船舶に乗船中の船舶事故によらない海中転落、負傷、病気、帰還不能、その他の事故

事故者数は20人(前年29人)で、内訳は水上オートバイ活動中が7人(前年5人)と増加しており、釣り中が7人(前年11人)、プレジャーボート活動中が5人(前年11人)、シーカヤック活動中1人(前年1人)となっています。

3 水上オートバイによる事故の状況

(1) 水上オートバイの事故隻数 (図10参照)

事故船舶の隻数は26隻(前年16隻)で10隻増加、過去5年の事故船舶隻数としては突出した事故隻数となっており、府県別では、兵庫県(日本海側を除く)18隻(前年11隻)、和歌山県6隻(前年4隻)、大阪府1隻(前年1隻)、徳島県1隻(前年なし)となっています。

(2) 水上オートバイが関係した事故者の人数 (図11参照)

負傷者数は41人(前年16人)で25人増加(前年の約2.5倍)、過去5年の水上オートバイが関係した事故者数としては突出した事故者数となっており、府県別では、兵庫県(日本海側を除く)29人(前年12人)、和歌山県8人(前年2人)、大阪府3人(前年2人)、徳島県1人(前年なし)となっています。

【参考】平成26年12月における船舶事故・人身事故発生状況（速報）

1 船舶事故

(1) 船舶事故は11件14隻（前年17件19隻）で、前年と比べ5隻減少し、死者・行方不明者は0人（前年0人）でした。

(2) 船種別では、14隻中4隻が漁船による海難で、プレジャーボート、貨物船の海難がそれぞれ3隻でした。

海難種類別では、衝突が7隻と最も多く、全体の半数を占めています。

2 マリンレジャーに伴う人身事故

(1) マリンレジャーに伴う人身事故者数は5人（前年11人）、前年と比べ事故者は6人減少しました。死者なし（前年2人）でした。

(2) 事故者5人を活動別に見ると、釣り中2人（前年8人）、ボードセーリング1人（前年なし）、ウェイクボード1（前年1人）、プレジャーボートなどに乗船中の事故者1人（前年2人）となっています。

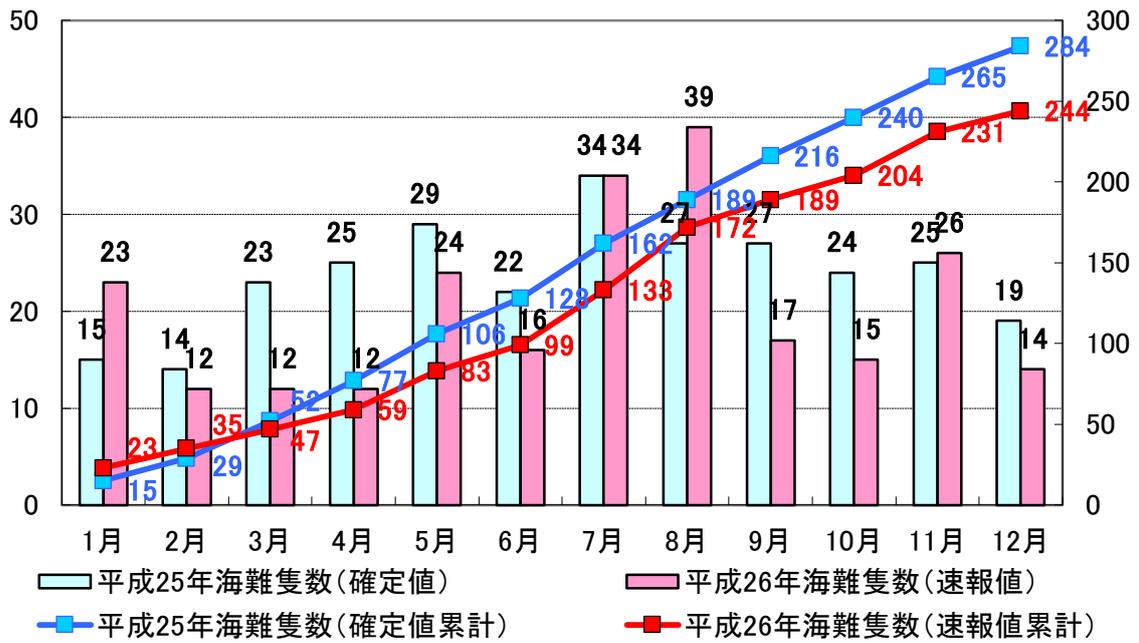


図1 船舶事故隻数

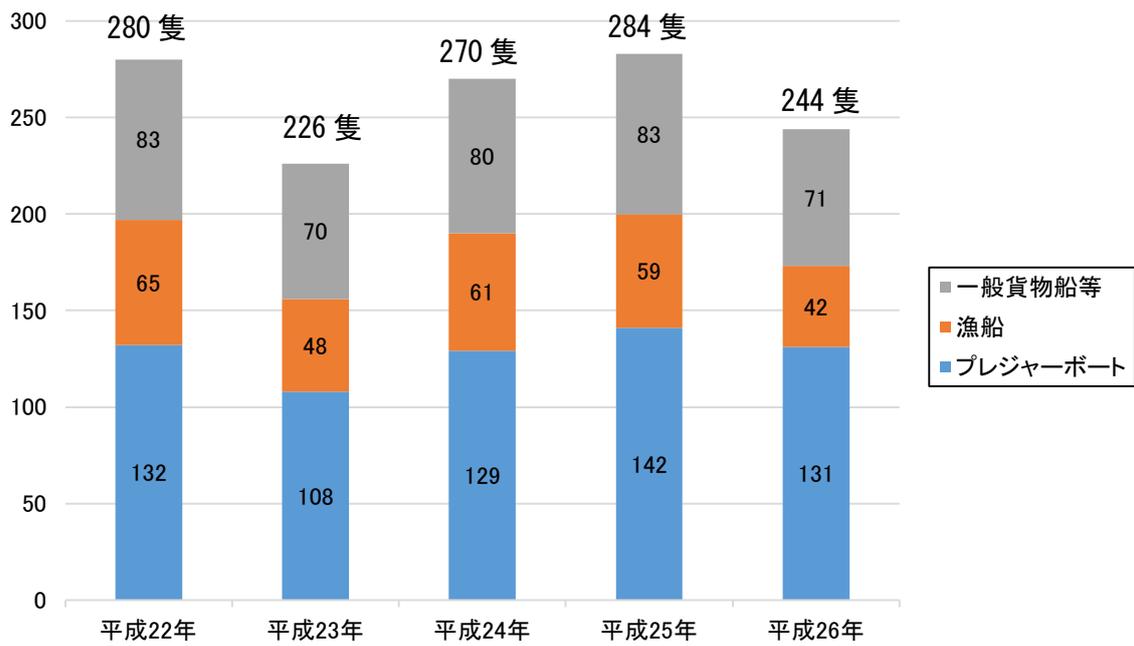


図2 船種別船舶事故隻数（過去5年間）

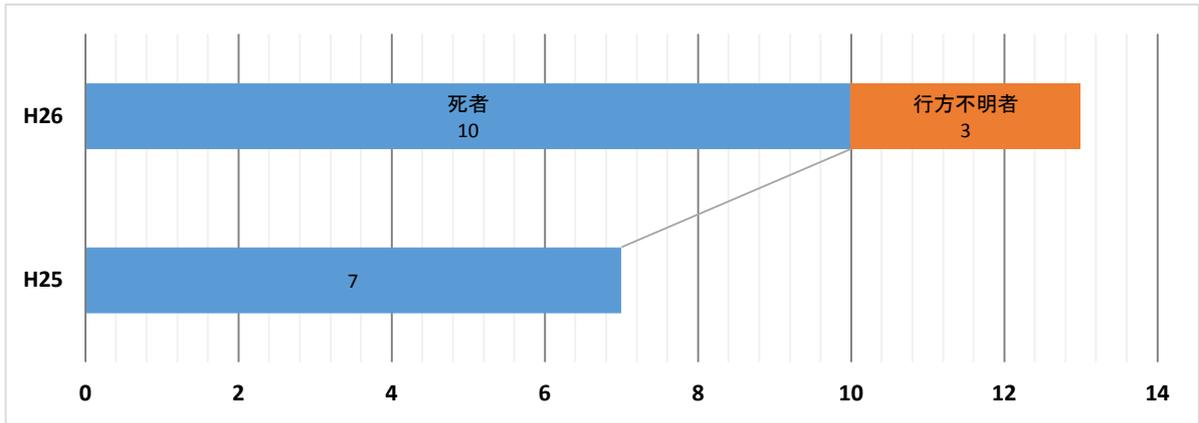


図3 死亡・行方不明者数

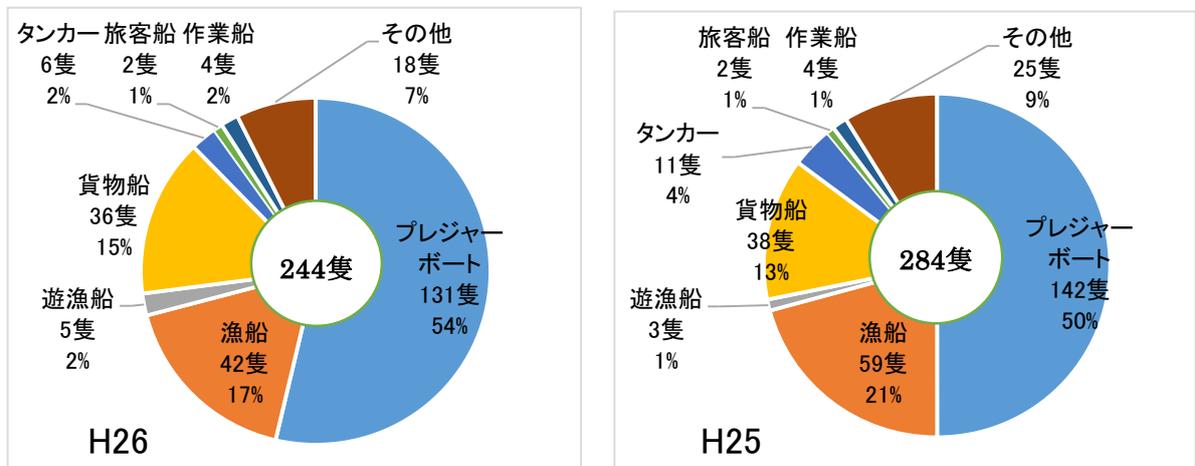


図4 船舶種類別海難隻数

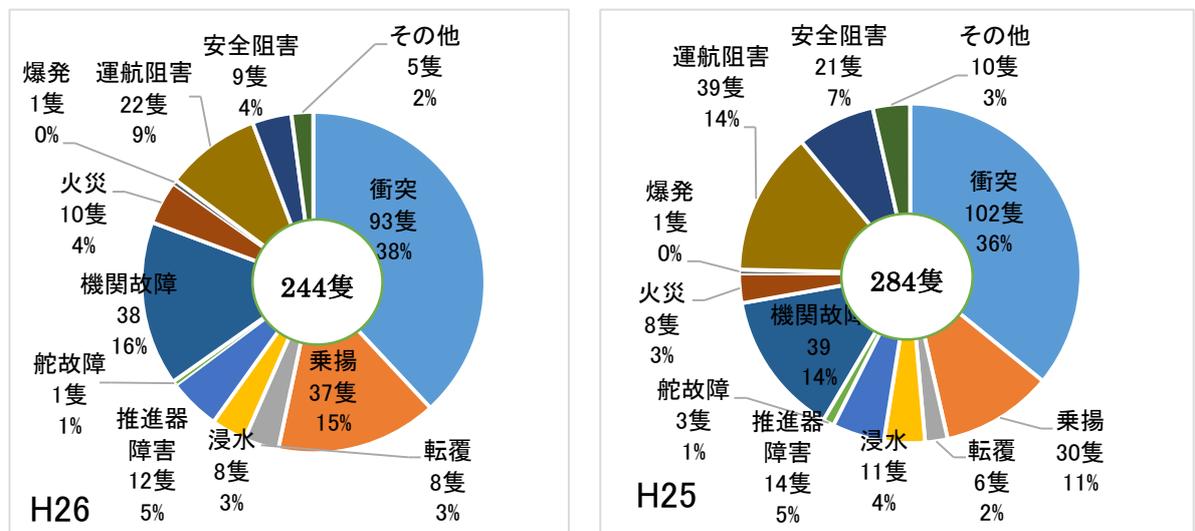


図5 船舶事故種類別隻数

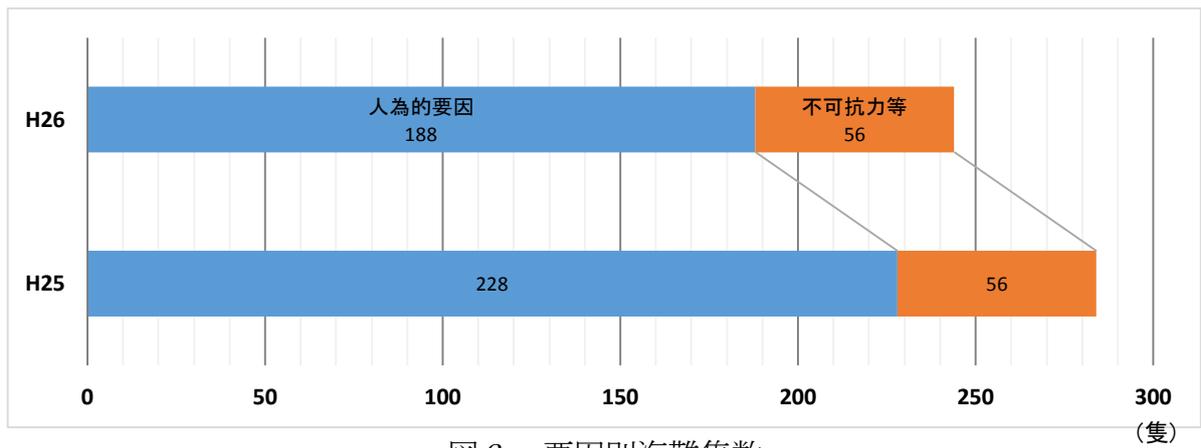


圖 6 要因別海難隻數

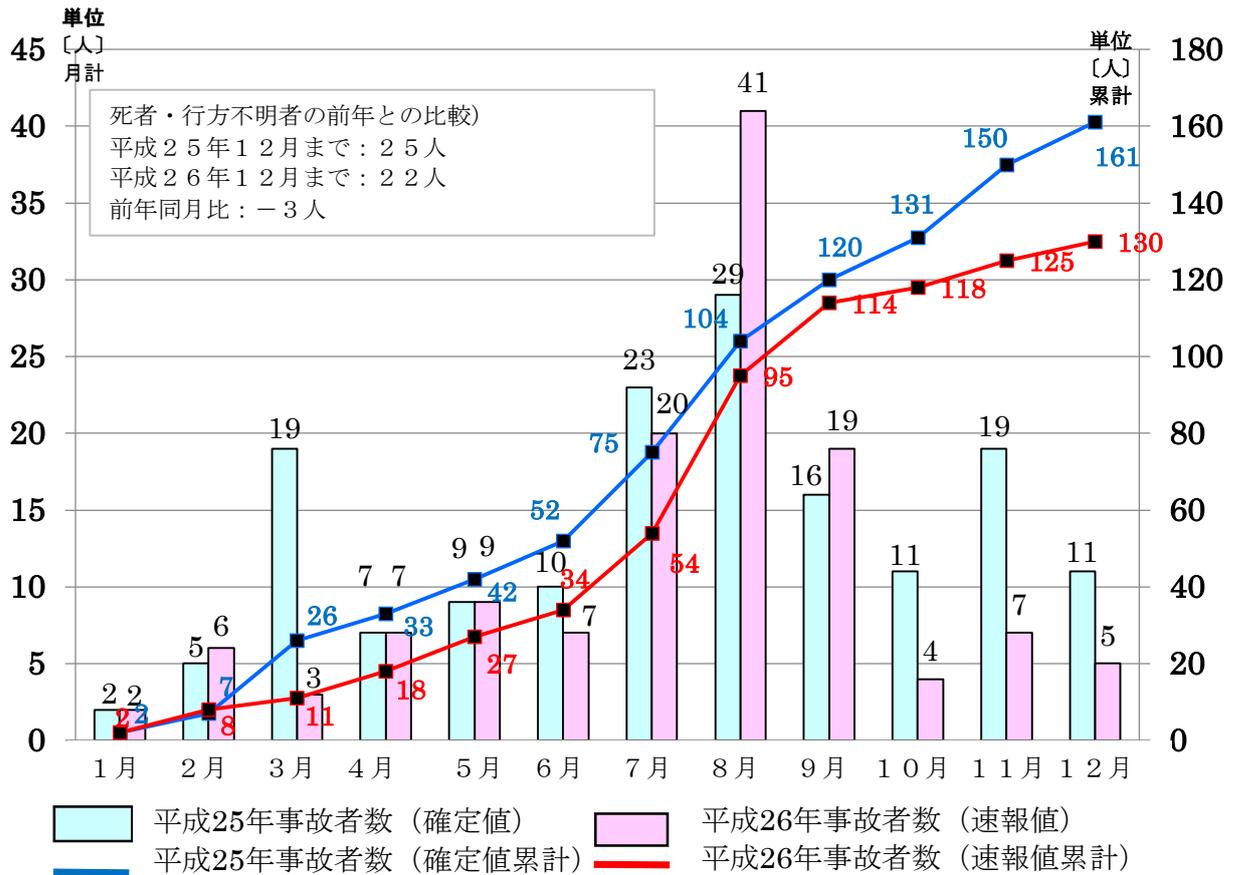
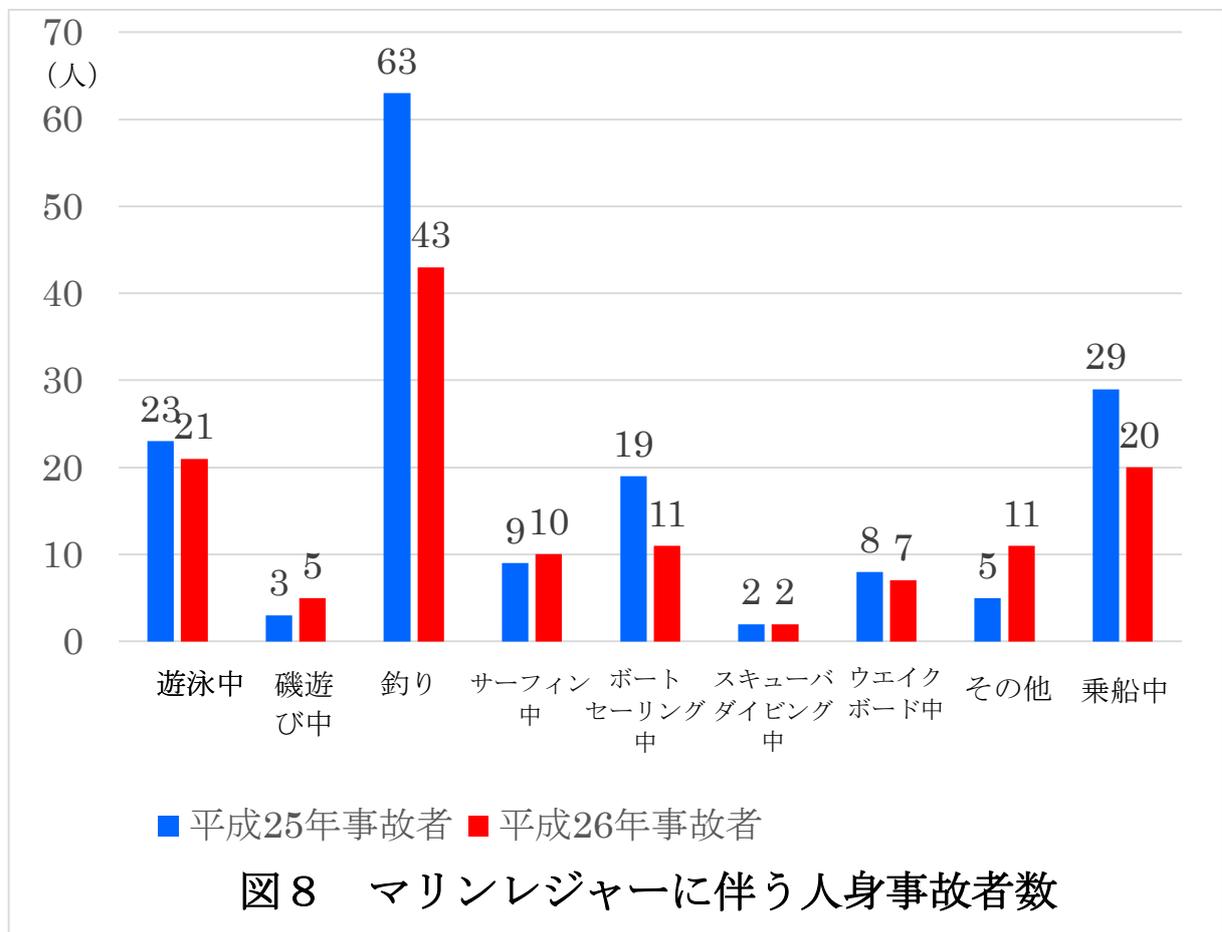


図7 マリンレジャーに伴う人身事故発生状況



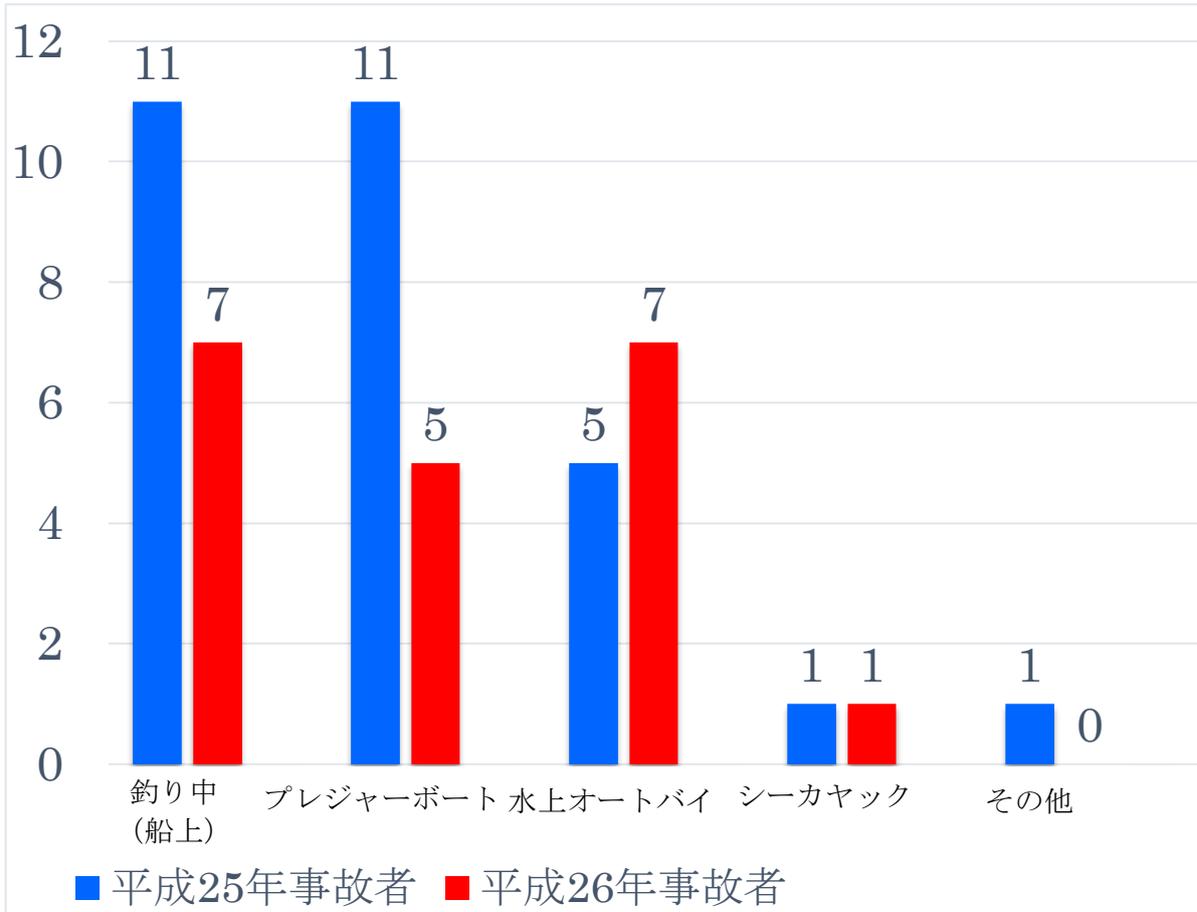


図9 乗船者の人身事故 (内訳)

